



日本共産党

のの山けん 区政レポート

<http://www3.kitanet.ne.jp/~nonoyama/> E-mail nonoyama@kitanet.ne.jp

北区議会議員

No.119 2010.5.6

発行 日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談はお気軽に

090-2156-3510

“公約破り”に怒り爆発

鳩山由紀夫首相は4日、沖縄の米軍普天間基地問題の「移設」問題で、同県を訪問し、仲井真弘多知事との会談などで県内「移設」と鹿児島県の徳之島への一部移転という政府方針を正式に伝えました。鳩山首相の表明は、昨年総選挙での「（移設は）国外 最低でも県外」の公約を破り、9万人余の県民大会（4月25日）で示された県民の総意をふみにじるものでした。

那覇市の県庁前、住民との対話集会が行われた宜野湾市、辺野古沿岸案の名護市では、抗議行動や集会が行われ、県民の怒りが爆発しました。

普天間問題 鳩山首相が沖縄県内移設と徳之島への一部移転を表明

日本共産党の市田書記局長は同日、記者会見で「普天間基地の『国外・県外』移設は、総選挙のときの民主党の最大の公約の一つだった。それを公言したわけだから、これほどの公約違反はありません」と批判し、稲嶺進・名護市長は「これまでの会談で『これ以上の基

伊波洋一・宜野湾市長は対話集会で「政府は沖縄ではなくアメリカの方を向いている」と思えてなりません」と批判し、稲嶺進・名護市長は「これまでの会談で『これ以上の基

の意を表明しました。



沖縄県庁前で抗議する県民ら
4日、那覇市

米軍普天間基地問題 Q&A あなたの疑問に答えます

Q. 沖縄の海兵隊は抑止力として必要では？

海兵隊とは、米軍がおこなってきた先制攻撃の戦争で「殴り込み」の任務を与えられた部隊です。沖縄の海兵隊も、無法なイラク戦争に派兵され、ファルージャでの民間人虐殺に参加しています。海兵隊は日本の平和と安全のための「抑止力」どころか、世界とアジアに脅威を与える「侵略力」なのです。

Q. 基地をなくせば沖縄の経済がダメになる？

沖縄では、基地があるために経済や雇用が阻害されているのが実態です。たとえば普天間基地では現在、200人の日本人が働いていますが、基地がなくなれば8000人の雇用が見込めます（宜野湾市の試算）。また北谷町や那覇新都心では、米軍から返還された土地で再開発が進み、大きな経済効果が生まれています。

Q. 「県外・国外」といってもどこへ移すの？

普天間の苦しみを受け入れるところがない以上、「無条件撤去」を求め、どこに置くかはアメリカ自身に決めもらう以外にありません。大田昌秀元県知事は、アメリカが8000人の海兵隊司令部を移転させるとしているグアムには普天間の13倍、嘉手納の4倍という巨大な基地があり、有力な候補地とのべています。



核廃絶交渉開始を

3日に始まった核不拡散条約（NPT）再検討会議に先立つ2日、日本共産党の志位和夫委員長は、当地のフィリピン国連代表部で、NPT再検討会議議長を務めるカバクチュラン国連大使に、核廃絶交渉開始の合意を求める要請文を手渡し会談しました。

日本共産党演説会



●党委員長・衆院議員 ●党政策委員長・参院議員 ●元国会議員秘書

志位和夫 小池あきら 田村智子

**5月14日(金)午後7時開会
東京体育館**

赤羽からバスが出来ます

17:00洋服の青山前 17:10七溜通り入口 17:15志茂駅前

■参加費500円（軽食付） ■申込は090-2156-3510（のの山）まで

北区議会・憲法9条を守る会 沖縄視察レポート

沖縄戦の癒えぬ傷跡

未来に向かって反戦・平和を誓う

観察の3日目、最終日（4月18日）は、沖縄戦集結の地、摩文仁の丘に建つ平和の礎、平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念などを訪問、沖縄戦の癒えぬ傷跡に平和の誓いを捧げました。

平和の礎（いしじ）には、国籍、敵味方を問わず沖縄戦で亡くなった方々の名前が刻印されています。ここに刻まれた20万人を超える犠牲者に思いをはせた時、いたるところに米軍基地が置かれ、戦争の殴りこみ部隊が、海兵隊がわが物顔で闊歩する現在の沖縄が、平和とはまったくの対極にあると

（4月18日）は、沖縄戦集結の地、摩文仁の丘に建つ平和の礎、平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念などを訪問、沖縄戦の癒えぬ傷跡に平和の誓いを捧げました。

平和の礎（いしじ）には、国籍、敵味方を問わず沖縄戦で亡くなった方々の名前が刻印されています。ここに刻まれた20万人を超える犠牲者に思いをはせた時、いたるところに米軍基地が置かれ、戦争の殴りこみ部隊が、海兵隊がわが物顔で闊歩する現在の沖縄が、平和とはまったくの対極にあると



摩文仁の沖縄戦没者墓苑で献花



ひめゆりの塔の前で

（終わり）

いう矛盾を痛感せざるを得ませんでした。

沖縄戦の壮絶さを象徴するのが“ひめゆりの悲劇”です。終戦間際、突然の解散命令に女生徒たちは混乱、ある者は戦火の中を逃げまどい、ある者は壕内で自決を図るなど、百数十人の尊い命が失われました。ひめゆりの塔に黙とうしながら、もっともっと生きたかったであろう学徒たちの魂に、反戦の祈りを捧げました。沖縄の過去から現在、そして未来へ、大きな収穫を得た今回の観察でした。